

令和7年一番茶情勢について

令和7年5月5日現在
J A 静岡経済連 茶業課

1 気象状況

- (1) 気温は、3月以降平年より高めに推移しました。
- (2) 降水量は、3月～4月は平年を下回りました。

2 生産状況

- (1) 早場所では、一般流通が大方終了し、飲料原料の契約生産へ移行、中間場所は、盛期を越え終盤に向かっている状況です。山間地・遅場所は近日中に盛期を迎える見込みで、玉露及びてん茶の生産が開始されています。
- (2) 需要対応及び煎茶価格の安定に向け、てん茶への生産転換を呼び掛けたことから、てん茶工場への生葉流通の動きが見られます。
- (3) 収量確保のため断続的に操業する工場や、計画よりも早めに生産を終了する工場などが見られます。例年より反収が少ない状態が続いています。
- (4) 連続降雨や急激な気温上昇がないことから、荒茶品質は安定しています。
- (5) 一番茶の平均反収は前年を下回る見込みで、現時点で生産を終了する工場では、前年比20%前後の減産となっています。全域で数量に纏まりを欠き大きな山のない生産となっていることから、県下荒茶生産量は前年(10,000t)を下回る見込みです。

3 流通状況

- (1) 荒茶価格2,000円以上は少量仕入れが目立ち、大口の荷口は取引に時間を要しました。1,000円台に入ってから減産予測もあり、堅調な取引となっています。
- (2) 平坦地(主に深蒸し煎茶)の取引価格は、1,000円台半ば～2,000円程度で、中心価格帯は1,000円台半ば～後半と見られます。山間地(主に普通煎茶)は、2,000円台～3,000円台の取引となっています。
- (3) 有機栽培茶の需要は高く、前年以上の価格で取引され有利販売に繋がっています。青みのあるかぶせ茶や特徴のある品種茶も引き合いがあり、価格は安定しています。

4 茶市場取引状況

※近似累計数量対比(5/4現在)

(単位: kg・円・%)

項目	令和7年		令和6年			前年比	
	数量	単価	月日	数量	単価	単価比	単価差
静岡(県内)	186,222	2,408	5/2	181,900	2,270	106.1	138
静岡(県外)	185,162	2,387	4/26	180,347	2,118	112.7	269
鹿児島	1,865,194	2,354	4/24	1,871,889	2,003	117.5	351

(株)静岡茶市場情報(5月4日現在)

- (1) 一番茶取引が盛期入りしましたが、県内茶取扱数量は3日連続の30,000kg台となりましたが、ピークなく推移しています。
- (2) 取引は5月1日の八十八夜から上物・下物に限らず足早な取引となり、早場所の減産予測の中、引き合いの強い状況が続いています。

以上